

図解 巧みに生きる 冬の虫たち

文：堀田佳之介 絵：富岡誠一

冬の間にはほとんど見られなかった虫たちは、春から夏にかけて次々に姿を現してきます。いったいどこにいたのでしょうか？今回の特集は、昆虫たちがどのような形で冬を越しているのか(してきたのか)、代表的なものをご紹介します。

今号が発行される3月は、まだ気温の低い日も多く、多くの昆虫たちが越冬の状態で見られますが、早くも活動を始める種類もあります。成虫で越冬するキタキチョウは、暖かい日には春の野花で吸蜜しています。ナナホシテントウも初春から暖かい日にはよく見かける昆虫です。4月になると、クビキリギスが繁殖のためにあちこちの草むらで「ジー——」鳴き始めます。ホソミイトンボは、越冬に適した枯れ草色から、鮮やかな青色を主体とした体色に変化して繁殖活動が始まります。他にも、蛹で越冬するアゲハチョウ類の羽化や、卵で越冬するカマキリ類の孵化も始まります。

これらの暖かくなると活動する多くの昆虫とは対照的に、冬が終わると姿を消してしまう昆虫もあります。冬に成虫期を迎える「フユシャク」と呼ばれる蛾の仲間です。多くの昆虫とは真逆の生活史を持つことが生き残る戦略となっているのです。

このように昆虫は種類によってその生活の様相はさまざまです。季節を巡る中で、昆虫たちの歴(こよみ)を観察してみると、自然観察の面白さも広がると思いますよ。



ジャコウアゲハ蛹

草の中などで越冬しています。

キタキチョウ

クビキリギス

ナナホシテントウ

クロナガアリ

巣の中で貯食していたものを食べながら越冬します。

ケラ

土の中で越冬しています。

イラガの成虫は
こんな姿です
(6~7月頃に成虫に)

イラガの繭

昆虫が作る繭(まゆ)の中
でも最大級の固さ。
この固い繭に守られて
冬を越します。幼虫には
毒毛があるので注意。

オオミノガ幼虫
(ミノムシ)

主に葉などを使って
巣をつくります。

ハラビロカマキリ卵鞘

たくさんの卵が入った
“卵鞘(らんしょう)”が
枝などに付いています。

アブラゼミ卵

1年目は卵で越冬します。

ホソミイトンボ

小枝などに留まって
越冬します。

ウスバフユシャク

冬に成虫期を迎えます。
メスは翅(はね)が
ありません。

翅を広げると
こんなにきれい

ゴマダラチョウ幼虫

エノキ(幼虫の食草)の根元
の落ち葉の下で越冬します。

ムラサキツバメ

常緑の葉が込み合うよう
な場所で越冬します。時
に集団を形成します。

カブトムシ幼虫

腐葉土や堆肥の中
などで越冬します。

コクワガタ

倒木の中で幼虫・成虫が
越冬しています。

アブラゼミ幼虫

2年目以降は幼虫で越冬します。

ギンヤンマ幼虫

池など水の中で越冬しています。

※このページは、本誌Vol.7の「越冬する昆虫」に、新たに4種を追加して作成しました。

みんなでつくる 生きもの図鑑

2018.12月・2019.1月・2月版

読者の皆さんから送っていただいた写真と、幼稚園で撮影した写真をまとめたこの図鑑は、地域にどんな生きものが住んでいるのかが分かるタイムリーな情報が集まった図鑑です。

地域の生物情報の蓄積を図り、地域の自然環境の保全に役立つものになりたい、とのみんなの願いが詰まっています。

- ※ 本コーナーは編集部で責任で企画・編集しています。誤りが判明した場合は速やかに訂正いたします。
- ※ 同定に迷った生きものについては、日本生態学会会員の岸一弘先生に同定をお願いしています。
- ※ 期間外の写真も一部含んでいます。



最近日本に侵入した外来種のカメムシ。クスノキに寄生する。全長(翅端まで)7mm前後。見つけたら教えてね!

外来

クスベニヒラタカスミカガ

- ① 平岡幼稚園 ② 2019年2月中旬
- ③ 堀田来佳

図鑑の見方 ①場所 ②年月 ③氏名 **危** 危険な生き物 **外来** 外来種 **★** 珍しい生き物 **岸** 岸先生同定種 **期間外** 2018年11月以降の写真

昆虫綱 トンボ目

オニヤンマ幼虫
① 平岡の森 ② 2019年1月中旬
③ 島津利乃

アキアカネ♂
① 秦野市下大槻 ② 2018年12月中旬
③ 伊藤悦子

アキアカネ♀
① 平塚市比金目 ② 2018年11月上旬
③ 山田衛

ミヤマアカネ♂
① 平塚市比金目 ② 2018年10月中旬
③ 山田衛

バッタ目

クビキリギス♂
① 平岡幼稚園運動場
② 2018年12月下旬 ③ 堀田文之助

クビキリギス♂
① 平岡幼稚園運動場
② 2018年12月下旬 ③ 松田千歳

クビキリギス♀
① 平岡の森 ② 2019年1月下旬
③ 荒川奏翔

ヒメクダマキモドキ
① 平岡幼稚園園庭
② 2018年12月上旬 ③ 山科瑞樹

オンブバッタ
① 平塚市岡崎 ② 2018年10月下旬
③ 氏居伊吹

オンブバッタ♂♀
① 平塚市岡崎 ② 2018年11月上旬
③ 高橋柊馬

シヨウリウオウバッタ♀
① 平塚市寺田縄 ② 2018年10月上旬
③ 西部颯太

トゲナフシ♀
① 愛川町半原 ② 2018年12月上旬
③ 堀田来佳

カマキリ目

オオカマキリ
① 平塚市比金目 ② 2018年10月上旬
③ 山田衛

オオカマキリ卵鞘
① 平岡幼稚園原っぱ
② 2019年1月下旬 ③ 野村椰都

オオカマキリ卵鞘
① 平塚市めぐみか丘
② 2019年2月上旬 ③ 柴田哲士

オオカマキリ卵鞘
① 茅ヶ崎市芹沢 ② 2019年2月上旬
③ 小林琉



期間外

ハラビロカマキリ

①平塚市上吉沢 ②2018年10月上旬
③西部颯太



期間外

ハラビロカマキリ♀(褐色型)

①平塚市浅間町 ②2018年11月中旬
③山田衛



ハラビロカマキリ卵鞘

①秦野市鶴巻 ②2018年12月下旬
③堀田来佳



ハラビロカマキリ卵鞘

①横浜市磯子区水取沢町
②2019年1月中旬 ③堀田来佳



期間外

カマキリ的一种

①平塚市上吉沢 ②2018年10月中旬
③西部颯太



カメムシ目

岸

ケブカカスミカメ

①平岡の森 ②2018年12月中旬
③伊藤悦子



危

ヨコツハサシガメ幼虫

①茅ヶ崎市芹沢 ②2019年2月上旬
③小林琉



岸 期間外

ヒメジウジナガカメムシ?

①平塚市上吉沢 ②2018年11月下旬
③西部颯太



岸

ヒメコバネナガカメムシ

①平岡の森 ②2019年1月下旬
③浅井優斗



岸

ヒメコバネナガカメムシ

①平岡の森 ②2019年1月下旬
③河合瑞貴



クヌギカメムシ卵?

①茅ヶ崎市芹沢 ②2019年2月上旬
③杉山莉穂



落ち葉の下で越冬中

ツチカメムシ

①茅ヶ崎市芹沢 ②2019年2月上旬
③金子隆空



モスのはやにえ

ツヤアオカメムシ

①秦野市鶴巻 ②2018年12月下旬
③堀田心結



ツヤアオカメムシ

①平岡の森 ②2019年1月下旬
③浅野光紀



ツヤアオカメムシ

①平岡幼稚園原っぱ
②2019年1月下旬 ③石塚龍成



ケヤキ倒木
樹皮裏で越冬中

ツヤアオカメムシ

①平岡幼稚園原っぱ
②2019年2月中旬 ③有村琉雅



アブラゼミ♀羽化殻

①平岡の森 ②2019年1月中旬
③相原文太



ミンミンゼミ羽化殻

①平岡の森 ②2019年1月中旬
③古賀心望



ツマグロオオヨコバイ

①平塚市土屋 ②2018年12月下旬
③石川優



アミメカゲロウ目

クサカゲロウの仲間

①平岡幼稚園園庭
②2019年2月上旬 ③小川さくら



コウチュウ目

ヒメアカホシテントウ

①秦野市鶴巻 ②2018年12月下旬
③堀田来佳



オナホシテントウ

①茅ヶ崎市芹沢 ②2019年2月上旬
③猪俣賢人



オナホシテントウ

①茅ヶ崎市芹沢 ②2019年2月上旬
③猪俣賢人



オナホシテントウ

①平岡幼稚園運動場
②2019年2月中旬 ③古川鮎太郎



ナナホシテントウ

①平塚市岡崎 ②2019年2月中旬
③小野麻琴



ナナホシテントウ

①平岡幼稚園原っぱ
②2019年2月中旬 ③深瀬太一



ナミテントウ

①愛川町半原 ②2018年12月上旬
③堀田来佳



ナミテントウ

①二宮町緑が丘 ②2018年12月上旬
③田口晃妃



サンゴジユハムシ

①平岡幼稚園園庭 ②2019年2月中旬
③有村琉雅



アカアシノミヅウムシ

①平岡幼稚園運動場
②2019年2月下旬 ③平岡幼稚園園児



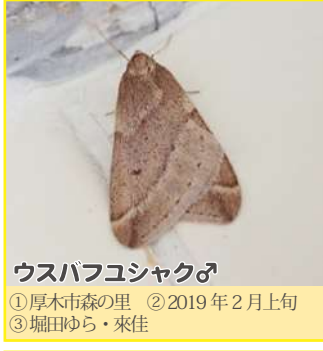
ヤサイゾウムシ幼虫?

①平塚市出縄 ②2019年2月上旬
③相澤永人



ヒモミノガの一種(幼虫の巣)

①茅ヶ崎市芥沢 ②2019年2月上旬
③小野麻琴



ウスバフユシャク♂

①厚木市森の里 ②2019年2月上旬
③堀田ゆら・来佳



ウスタビガ空蛹

①愛川町半原 ②2019年1月下旬
③吉田文雄



エビガラススメ? 蛹

①平岡幼稚園原っぱ
②2019年2月中旬 ③深澤嘉斗



ヨトウガ? 幼虫

①平岡幼稚園園庭
②2018年12月下旬 ③山口彩華



ウリキンウフバ幼虫

①平塚市北金目
②2019年2月上旬 ③高村葵一



ジャコウアゲハ蛹殻

①平岡の森
②2019年1月中旬 ③れんげ組



キアゲハ

①平塚市万田 ②2018年10月中旬
③山田衛



モンキチョウ♀

①平塚市岡崎 ②2018年11月上旬
③堀田文之助



モシロチョウ

①平塚市北金目 ②2018年10月下旬
③山田衛



ウラギンシジミ♀

①平岡の森 ②2018年12月中旬
③富岡誠一



ヤマトシジミ

①平塚市万田 ②2018年10月中旬
③山田衛



キタテハ

①平塚市北金目 ②2018年10月下旬
③山田衛



ヒメアカタテハ

①平塚市万田 ②2018年10月中旬
③山田衛



ケヤキハフクロフシ

①平岡の森 ②2019年1月中旬
③田尻陽莉



キンケハラナガツチバチ

①平岡幼稚園園庭
②2018年12月中旬 ③吉田一平



キハダカニグモ♀

①平岡の森 ②2019年1月下旬
③細川晴香



カミムシの仲間
①平岡の森 ②2019年1月下旬
③河合瑞貴



ムカデ綱
トビズムカデ
①平塚市真田 ②2019年2月上旬
③安藤和人



甲殻類
外来
オカダンゴムシ
①平岡の森 ②2019年1月下旬
③福島仁菜



ワラジムシ
①平岡の森 ②2019年1月中旬
③岩本莉那



ザワガニ
①平岡の森 ②2019年1月下旬
③ちゅうりっぷ組



ザワガニ
①平塚市真田 ②2019年2月上旬
③安藤和人



ザワガニ鉗脚 (はさみ)
①平岡の森 ②2019年2月下旬
③大坪楓



腹足綱
サカマキガイ
①平岡の森 ②2019年1月中旬
③古屋晃汰



ウスカワマイマイ
①平岡幼稚園副原っば
②2019年2月中旬 ③小川律



ミスジマイマイ
①茅ヶ崎市芥沢 ②2019年2月上旬
③金子睦空



両生類
ニホンアマガエル
①平岡の森 ②2019年1月中旬
③片沼光輝



ニホンアマガエル
①茅ヶ崎市芥沢 ②2019年2月上旬
③飯村幸也



爬虫類
期間外
ニホンヤモリ
①平塚市上古沢 ②2018年10月下旬
③西部浩美



ニホンヤモリ
①平岡の森 ②2019年1月下旬
③市川真人



植物
ホノノキの実 (右) と ヤシヤブシの実 (左)
①茅ヶ崎市芥沢 ②2019年2月上旬
③猪俣篤人



ヘクソカズラの実
①平岡幼稚園副原
②2019年2月下旬 ③須田香奈子

活動の成果 (文献紹介ほか)

私たちの活動の成果が、地域の自然史の1ページに刻まれました。

神奈川県昆虫誌2018 カマキリ目

西部浩美さん・西部颯太くんが伊勢原市大住台で撮影したオオカマキリの写真(本誌Vol. 3に掲載)のデータが「神奈川県昆虫誌2018」に収録されました。これまで伊勢原市ではオオカマキリの記録が取られていなかったため、同市における初記録となりました。



【文献情報】

梶真史, 2018. カマキリ目. 神奈川県昆虫誌2018(1): 122-126.



生きもの写真募集!

一般の方からの投稿も大歓迎
写真と「いつ」「どこで」「だれが」を添えて下記アドレスまで。

ikimono@hiraoka-kg.com



博物館に標本を寄贈しました!

本誌Vol. 10, P11にて紹介した荒川湊翔くんがイタリアで採集した「ヒメリンゴマイマイ」と、平成30年10月に園内で小澤瑞穂教諭が園児たちと一緒に採集した「オカチョウジガイ」が、神奈川県立生命の星・地球博物館、平塚市博物館、横須賀市立自然・人文博物館に収蔵されました。みんなの発見が、市民・県民の貴重な知的財産・生物学的遺産となりましたことをご報告いたします。



ヒメリンゴマイマイ
Cornu aspersum (O. F. Müller, 1774)

【標本番号】
KPM-NGD000194~000196
HCM-54-1747:YCM-H 9403



オカチョウジガイ
Allopeas clavulinum kyotense
(Pilsbry & Hirase, 1904)

【標本番号】
KPM-NGD000197~000208
HCM-54-1748

※KPM・・・神奈川県立生命の星・地球博物館
HCM・・・平塚市博物館 YCM・・・横須賀市立自然・人文博物館

地域の自然を知ろう!守ろう!伝えよう!

A はっけん隊 アクションレポート Action Report 2018.12月~2019.2月



県立茅ヶ崎里山公園、柳谷観察会にて (2/10)
撮影: 茅ヶ崎野外自然史博物館館長 山口英雄氏

平岡幼稚園では「自然の中であそび、自然から学ぶ」をテーマに、園内外のさまざまな自然とふれあいを深めていく活動を行っています。多種多様な恵みをもたらしてくれる自然を、私たち1人ひとりが大切にしたい!と思うことが、地域の自然環境を守っていく第一歩となるはずです。

本コーナーは、我が園冬季のアクションと地域の自然観察スポットの情報等を盛り込みました。皆様の自然体験の充実のお役に立てれば幸いです。

かながわ地球環境賞受賞!

平岡幼稚園では、日々子どもたちや保護者の皆さんと一緒に、地域の自然を見つめ直し、保全の第一歩となるような教育活動を行っています。そのことが評価され、2月6日(水)に神奈川県庁大会議室にて、表彰を受けました。

神奈川県 HP に、我が園の取り組み「自然はみんなのワンダーランド~平岡発 生き物溢れる街づくり~」が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

〈県 HP〉 <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/cnt/f530926/>

神奈川県知事より授与



文之助教諭

黒岩知事



黒岩知事による基調講演



受賞者記念撮影

かながわ地球環境賞って?

本賞は、自然環境の保全や温室効果ガスの排出削減、かながわスマートエネルギー計画の推進等に寄与した団体・企業や個人の功績をたたえるため、毎年、「神奈川県」および「かながわ地球環境保全推進会議」により表彰が行われています。県内でそのような活動をしている方は来年応募してはいかがでしょうか?

さがみ自然フォーラム

我が園で行っている生物多様性の保全事業や自然を教材とした教育活動を周知し、他団体とも交流を図るため、平成31年2月7日(木)~2月11日(月・祝)に開催された「さがみ自然フォーラム」(会場:本厚木駅前アミュあつぎ)でパネル展示を行いました。

来年は2月6日(木)~11日(火・祝)アミュあつぎで開催されます。行政、市民、研究・教育機関等様々な団体の取り組みの発表がありますので、ぜひご来場ください。平岡幼稚園も参加予定です。



さがみ自然フォーラムって?

「さがみ自然フォーラム」は、県内で生物多様性に関する活動を行っている団体等が、日頃の活動報告や啓発のための講演会等を行う、厚木市と神奈川県自然保護協会が主催するイベントです。

県立茅ヶ崎里山公園観察会（柳谷観察会）

平成31年2月10日（日）に、茅ヶ崎市最大の谷戸「柳谷（やなぎやと）」が丸ごと公園となった“神奈川県立茅ヶ崎里山公園”にて、有志を募って冬の生きもの探しを楽しみました。日差しは暖かかったものの、当日の最高気温は4℃。冷たい空気と北風の中でも、子どもたちは元気に里山を走り回っていました。参加者の皆さんは、厳しい冬を乗り切るための巧みな生きものたちの戦略を目の当たりにして、自然のすごさを体感したことでしょう。

※ 同観察会は、茅ヶ崎野外自然史博物館主催行事ですが、平岡幼稚園からの参加者が多かったため、別行動で実施しました。我が園は、独自に「冬越しする生きもの探し」「コケ類の観察」「冬芽の顔探し」の3つのテーマで行いました。



自分の手を見ることも巻き、左巻き簡単じゃあるよ!

カタツムリは左巻き右巻き？



出発前に予習

ミスジマイマイが見つけれられて楽しかった (園児) ドングリ拾うのが楽しかった (園児)



冬越しする生きもの探し

あまり冬は虫探しをしないので、虫の冬越しのことが知れて良かったです。(園児) テントウムシを拾ったのが楽しかった (園児)

オニヤンマ幼虫

ナナホシテントウ

ヨコヅナサンガメ幼虫

ジョロウグモの卵のう

クヌギカメムシの卵

オオカマキリ卵鞘

ニホンアマガエル見つけたよ!



おが凍ってた!

ホオノキ(左)とヤシヤブシ(右)の実

今日の参加者

木の顔を一つ見つけた (園児) 顔を見つけた、かわいかった (園児)



コケは、一見同じように見えるけど、虫眼鏡で見ると見ただけじゃわからないことが面白かった。(園児)



沢山の種類のコケが見られた木

コケ類の観察

コケを観察する世界を体験できて新たな発見でした (園児)

本号の4-5を印刷して調べてみたら、全部で種類見つかったよ!

カラヤステゴケ

ロウソクゴケ

ヒナノハイゴケ

トゲハクテングケ

モジゴケ類

イワイトゴケ

ウメノキゴケ

コフキメダルチイ

文字が書いてあるみたいだね



冬芽・葉痕の顔探し

こんなところに顔が!

サクラ ヤシヤブシ



わたしたちが遊んだ「県立茅ヶ崎里山公園」はここ!



園内里山保全エリアでは多くの生きものが見られます。他に、大型遊具やバーベキュー場、お食事処もある大きな公園です。

茅ヶ崎市芹沢 1030
Tel: 0467-50-6058

鈴川探鳥会

平成31年2月17日(日) 9:30～11:30に、野鳥観察グループ「こまたん」の皆さんのご協力のもと、鈴川周辺で観察会を実施しました。風もなく、観察会日和でした。29種(あと1種で大台に・・・)の鳥が見聞きできました。皆に人気の空飛ぶ宝石「カワセミ」や、ピーチュルピーチュルと空高く舞い上がってさえずるヒバリ、電線に止まって獲物を探すチョウゲンボウ、河原の陽だまりで羽を休めるカルガモ等々、鳥たちの姿を覗きながら歩いていたら、あっという間に2時間が過ぎてしまいました。今年は、田んぼの貴婦人「タゲリ」には、残念ながら出会えませんでした。参加者の皆さんには野鳥を観察する楽しさを存分に感じていただけたことと思います。こまたんの皆様、ありがとうございました。



こまたんの先生方に教わりながら観察

いろんな鳥を望遠鏡で見れて楽しかった。(園児)



イソシギ 撮影：金子典芳氏

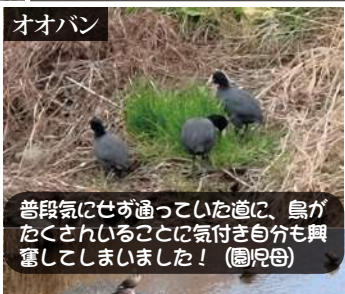
ヒバリが見れて良かった。いつも声があるけど姿が見えなくて、ヒバリと謎が解けました!(園児母)



ヒバリ 撮影：金子典芳氏



タヒバリ 撮影：金子典芳氏



オオバン 普段気にせず通っていた道に、鳥がたくさんいることに気づき自分も興奮してしまいました!(園児母)



今回は出会えず...タゲリ



カルガモ



ドバトの群れ ドバトがみんな同じ色じゃなくて違う色をしているのが楽しかった。(園児)



最後に見聞きした鳥をチェック!～「鳥合わせ」風景



当日の参加者で記念撮影♪ こまたんメンバー、平岡メンバー合わせて81名!



わたしたちが遊んだ鈴川はこんなところ!



鈴川は、大山を水源とする金目川水系の2級河川です。近年、水質が改善され、生きものが豊かな川になりつつあります。広大な耕作地が隣接しているため、さまざまな鳥類が見られる楽しい場所です。たくさんの生きものが見られる、この豊かな環境をいつまでも大切にしたいですね!



自分が感じた自然の
楽しさや不思議を
絵に描いてみんなに
伝えてみよう！

絵画投稿コーナー

おえがきひろば

今回の表紙絵は、教職員19名
で投票を行い選出しました。



「はじいろこい
しいあらゆきや (6才)」



「はるまってるよ〜
しながわのあ (6才)」



「うめのきにとまってて
ちんたこいはアオバト」
のあらとく (5才)」



「うめのきとアオバト」
のあらとく (5才)」



「じぶんごみつたてこい」
たけしけこみ (5才)」



「はやくてこうをしさん
あいたいな」
しながわいあい (4才)」

生きものの絵画 大募集 A4・縦向きで裏に題名と氏名・年齢を書いて幼稚園まで！

読者の声

本誌に対するご意見・ご感想をお聞かせください。

～子育て世代のお母さまからのお手紙です～

「湘南自然誌」11号を興味深く拝読しました。特に「愛すべき湘南の鳥たち」の特集は、兄が夢中になって読んでいます。ちょうど学校の授業で野鳥観察をしたことから野鳥に興味を持ち、見かける鳥をインターネットで調べたりしていたところだったので、とてもタイムリーな特集でした。自分の身近にいる鳥が一覧で掲載されていて、図鑑よりも詳しく解説がされていて、こんなにも「かゆい所に手が届く」冊子があるのでしょうか！我が家の永久保存版です。

7ページの玉川橋の工事のエピソードも、あたたかい配慮に心打たれるとともに、私たちも小さな命を大切にしたいと思いました。湘南自然誌を手に、身近な自然を散策してみたいと思います。

編集部より

お手紙にあった「学校の探鳥会」と、本誌11号の特集「愛すべき湘南の鳥たち」は、ともに「こまたん（野鳥観察グループ）」の先生によるものです。我が園で行う探鳥会も「こまたん」の皆様にご支援いただいております。

自然は奥深く、私たちだけではできない活動も多くあります。そこで我が園では積極的に多分野の先生方と連携していくようにしています。このお便りを読んで、そのような連携が子どもたちの自然体験の質・幅を相乗的に広げていることを改めて感じました。

「鳥類の魅力を一人でも多くの人に伝えたい！」と日々活動を重ねている「こまたん」の皆様、嬉しいお便りをいただいたお母さま、ありがとうございました。
(堀田)



『アオバト像』 富岡誠一

平岡いきものはっけん隊 NEWS

2019年より一般向けに湘南自然誌 冊子版の頒布を始めます

本誌を子どもたちの教育や、自然史の研究、地域の環境保全等にご活用いただけるように、ご希望の方に園の在庫から冊子版を無料でお譲りすることにしました。

残部に限りがあるため、お1人様1部に限ります。事前連絡の上、ご来園ください。

【連絡先】メール：ikimono@hiraoka-kg.com 電話：0463-58-1188 (担当:園長)

これまでの特集

- | | |
|---|---------------------------|
| Vol.1 『幼児教育における自然体験の意義』 | (茅ヶ崎野外自然史博物館顧問 岸一弘先生) |
| Vol.2 『あいだ先生のチョウ教室』(以降 Vol.8までコラム連載) | (日本鱗翅学会会員 會田重道先生) |
| Vol.3 『湘南のアオバト博士に聞く!アオバトが繋ぐ人の輪・自然の輪』 | (こまたん 斎藤常實先生) |
| Vol.4 『湘南の原風景～65年前の自然と暮らし～』 | (ナチュラルイラストレーター 森上義孝先生) |
| Vol.5 『平岡幼稚園のビオトープのあゆみとこれから』 | (ビオトープ管理士 小此木宣夫先生&岸しげみ先生) |
| Vol.6 『家族で野山に出かけてみよう!』 | (秦野市くずはの家学芸員 手塚真理先生) |
| Vol.7 『自然と童話は子どものワンダーランド!』 | (鶴見大学短期大学部保育科教授 山田吉郎先生) |
| Vol.8 『球界一のチョウ収集家～元大洋ホエールズ投手 稲川誠先生に伺う～』 | (元大洋ホエールズ 稲川 誠先生) |
| Vol.9 『一寸木 肇先生に伺う 心を育む理科教育』 | (おおい自然園園長 一寸木 肇先生) |
| Vol.10 『岸一弘先生に聞いてみよう なぜ?なに?生きものQ&A』 | (日本生態学会 岸一弘先生) |
| Vol.11 『金子典芳先生が紹介する 愛すべき湘南の鳥たち』 | (日本野鳥の会神奈川支部幹事 金子典芳先生) |

『湘南自然誌』バックナンバー

① HPでダウンロード

平岡幼稚園のHPからPDFがダウンロードできます。

<http://hiraoka-kg.com/>

② 公共施設で閲覧

以下の公共施設に収蔵されています。(赤字は新取蔵先)

- 【図書館】 国立国会図書館、神奈川県立図書館、**横浜市立図書館**、平塚市図書館、**相模原市立図書館**、茅ヶ崎市立図書館、大磯町立図書館、二宮町立図書館
- 【博物館等】 県立生命の星・地球博物館、平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、**相模原市立博物館**、大磯町郷土資料館、愛川町郷土資料館
- 【その他】 神奈川県自然環境保全センター、県立環境科学センター、県立秦野ビジターセンター、県立愛川ふれあいの村、秦野市くずはの家、平塚市子育て支援センター、平塚市環境保全課、**平塚市立岡崎公民館**

③ 平岡幼稚園にて頒布

希望者には無料でひとり1部に限り、園にてお渡ししています。(※ 要事前連絡) ikimono@hiraoka-kg.com もしくは 0463-58-1188(担当:園長)まで

平岡幼稚園の紹介

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園には、台地斜面から湧き水が染み出し、元々の表土も多く残されるなど、豊かな自然環境が保存されています。2009年より園地をビオトープにして、周囲に住む多様な生き物を呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全する活動を行っています。昭和42年開園、学園地総面積7,501㎡。

- 【受賞歴】 2012年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「奨励賞」受賞
2014年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013「日本生態系協会賞」受賞
" 関東・水と緑のネットワーク拠点100選に「平岡幼稚園ビオトープ」が選定
2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
2016年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015「日本生態系協会賞」受賞
2018年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2017「日本生態系協会賞」受賞
2019年 「かながわ地球環境賞」受賞

平岡いきものはっけん隊の紹介

平岡幼稚園の全園児・全教職員・卒園児で構成される本隊は、各界有識者の助力を得ながら、子どもたちの自然体験の充実を図ると共に、地域の自然を大切にしていこう活動を行っています。

本誌の発行もその活動の一環です。毎号子どもから大人まで楽しく自然の面白さを学べる記事を組むと同時に、隊の活動で得られた湘南地域の生きもの情報の蓄積・発信を行っています。

【主な研究・発表実績】

研究テーマ	実施年	発表先
平塚市内のセミのぬけがら調査	2014～17年	平塚市博物館研究報告『自然と文化』(38～41)
神奈川県におけるハルゼミの分布調査	2015～17年	平塚市博物館研究報告『自然と文化』(39～41)
平塚市内のトンボ調査	2015～17年	神奈川自然誌資料(38)(共著)
その他 ※	随時	神奈川虫報、Cicada、かまくらちょう等

※ヒラタクワガタ、クロタマムシ、ハイイロツツクビカミキリ、トラフコメツキ、ヒメサナエ、タカネトンボ、ニッポンハナタカバチ、ヨツボシトンボ、コオロシ、ヒメナガメ、ミンミンゼミ赤色型、ハルゼミの生態観察例、アブラゼミ脱皮殻にみられた畸形、他多数

編集後記

今回の特集は、「コケ類」と少々マニアックなテーマになりましたが、編集を通じてとても奥の深い生きものであることが分かりました。特に地衣類は、光合成のできない菌類が光合成をする藻類を共生させて生きているという変わった生命体です。そのあたりも大変興味深いのですが、今号ではまずは読者にコケ類の世界の入り口を知っていただくこと、なるべく難しい話にならないよう編集したつもりです。吉田先生としてはまだまだ語り足りなかったかもしれませんが、そんな編集部への要望に応えていただきありがとうございます。

最後に、生きものの同定などで毎号お世話になっている岸一弘先生と、鳥の写真を提供して下さった「こまたん」の金子典芳先生、観察会風景を送って下さった茅ヶ崎野外自然史博物館館長の山口英雄氏に感謝申し上げます。(富岡)